

障害者団体等との意見交換会の実施結果について

1 概要

本市の実状を踏まえた条例づくりを進めるため、以下の意見交換会を実施し、本市における障害を理由とする差別事例や合理的配慮の事例の収集等を行ったもの。

2 団体名，実施日時，場所及び出席者等

(1) みやぎ脳外傷友の会七夕

- ・平成26年7月28日（月）18：30～20：00
- ・仙台市役所本庁舎 5階第2会議室
- ・団体3名，委員2名，市職員4名

(2) 宮城県自閉症協会

- ・平成26年7月29日（火）10：00～11：30
- ・北部発達相談支援センター 大会議室
- ・団体7名，委員1名，市職員4名

(3) NPO法人 宮城県患者・家族団体連絡協議会

- ・平成26年7月29日（火）15：00～16：30
- ・南部発達相談支援センター 3階大会議室
- ・団体11名，委員2名，市職員4名

(4) 社会福祉法人 仙台市障害者福祉協会

- ・平成26年7月31日（木）18：30～20：00
- ・北部発達相談支援センター大会議室
- ・団体42名，委員3名，市職員5名

(5) 仙台市知的障害者関係団体連絡協議会

- ・平成26年8月5日（火）14：00～15：30
- ・南部発達相談支援センター 3階大会議室
- ・団体36名，委員3名，市職員4名

(6) NPO法人 仙台市精神保健福祉団体連絡協議会

- ・平成26年8月7日（木）14：00～15：30
- ・南部発達相談支援センター 3階大会議室
- ・団体14名，委員2名，市職員4名

(7) 誰もが暮らしやすいまちづくりをすすめる仙台連絡協議会

- ・平成26年8月8日（金）10：00～11：30
- ・南部発達相談支援センター 3階大会議室
- ・団体17名，委員2名，市職員4名

3 意見交換における主な内容

みやぎ脳外傷友の会七夕

【差別事例・配慮が得られなかった事例】

- ・「できるのに障害者ぶってやらないの?」「嘘をついてる」など誤解される。
- ・社会的行動障害の暴力等について、「前からじゃない?」「性格の問題」とされつらかった。
- ・職場で何気ない会話ができない。仙台弁で言う「混ぜられない」という感覚がある。
- ・動き回り、問題を起こすので、入院継続は無理と退院させられた。
- ・震災で3日以上避難所にいられた高次脳機能障害の人の話は聞いたことがない。
- ・避難所で、開示するタイミングがなかったため、誤解されてしまった。
- ・できているのに障害者として何か利用しようとするか理解してもらえない。
- ・高次脳機能障害の場合は記憶障害があり忘れてしまうこともあるので、取材の撮影の同意については、本人だけでなく家族にも確認をしてほしい。家族のプライバシーも守って欲しい。
- ・銀行の手続きで、代筆を頼んだが、嫌な顔をされた。

【周囲から配慮が得られた事例】

- ・当事者が飛び出して行った時、地下鉄の改札の人が、追いかけた支援者をすぐに通してくれ助かった。

【その他の意見】

- ・どこに障害があるか、なかなか見えづらい障害で理解してもらいにくいいため、支援が得られにくい状況がある。
- ・普通には扱ってほしいが、配慮してもらいたいところもあり難しい。
- ・支援者の中に「あえてそこを聞く必要はない」とか、「わからないんだったら、こちらで決めて決まったことを提供すればいい」という人がいて、情報を提供しなかったり、自分のことを決断できなくなることもある。
- ・大人になってから知識として入ってくるより、子供のときに皆同じなんだとか、違う人がいるとか、そういうところから入っていくと、10年後、20年後は大分違ってくると思う。

宮城県自閉症協会

【差別事例・配慮が得られなかった事例】

- ・「何でこの子こうなったの」「何言ってもわからないのね」とか、何気ない言葉で親が傷ついてきた。
- ・それが障害なのに、本人にコミュニケーションとりなさいというのが差別じゃないか。
- ・グループホームでは、ほかの人と仲よくできる人というのが第1条件になるが

難しい。

- ・就労に関しても、学校に関しても、ほかの友だちと仲よく行動ができないというところで、何となく下に見られてしまう。
- ・手のかかる子が山の上の学校に何十分もかけて行かなくちゃいけない。
- ・近くの歯医者に連れていったら、障害があるからできないときっぱり言われた。
- ・町中にある目の前の小学校や中学校、病院に普通に行けない。
- ・地域で暮らしたいと思っても、グループホームとかの反対運動でだめになったり、すごく時間がかかったりというのが多い。
- ・自閉症の子供が身体障害者の方に、失礼なことをやってしまった時、謝ったが「私は障害があってこういう不自由な体をしているのに、どういうしつけをしているんだ」と烈火のごとく怒って、自閉症だとわかってもらえなかった。
- ・バス停の乗り場ももう少し大きく、わかりやすく書いて欲しい。
- ・地下鉄の表示にふりがながない。漢字とローマ字だけでわからない。
- ・地下鉄ホームの足形がわかりやすかったのになくなった。

【周囲から配慮が得られた事例】

- ・小さいときから行っている病院で、隔離するちょっと小部屋みたいところで待たせてくれたり、順番をちょっと早目にしてくれたり配慮してくれる。
- ・地下鉄で、毎朝会う人たちは何となくなれていて、ここの場所が好きな子だともうインプットされていると、「あの子はあの場所好きだから」とすっとよけてくれた。

【その他の意見】

- ・やはり小さいときからの周りの障害持っていない人たちの啓発しかない。
- ・差別はされていても、本人はよくわかっていない場合が多く、周りの家族の方が感じている。
- ・投票のとき、福祉コーナーを1つつくってもらおうと障害のある人は楽。
- ・役所などの入り口に、配慮の必要な方に対応できるような案内の人を置いてほしい。
- ・親が一番本人に差別とか人権を侵害しているのかなと思って悩んでしまう。
- ・何でしてくれないのだけじゃなく、何回も何回もお願いですからという感じのやりとりもやはり必要。
- ・周りを巻き込んでいって理解してもらうのが一番早いと思っている。
- ・障害といたらイコール車椅子の人とか、そういう人にやさしい町にすれば、障害者にやさしい町というふうに捉えている人が多い。
- ・小さいときから一緒に暮らして、目に見えない障害者がいるということを知って育てている子供がどれだけいるかが、将来、目に見えない障害をわかってくれる人の数に影響すると思う。

【差別事例・配慮が得られなかった事例】

- ・難病に指定され、障害者手帳がないため、一時保育の利用などサービスが受けづらい。
- ・夜つえをついて歩くと、工事がわからなくて、よくつまずいて転んだり、堀に落ちたりしている人がいる。
- ・障害者用の駐車場があいているときがない。
- ・普通のトイレが混んでいると、身障者じゃない人でも身障者用トイレを使ってしまっていて、なかなかトイレを探せない。
- ・迷惑をかけるからバスの利用はしないという人がいる。障害者の方が迷惑をかけたくないって何で思わなければいけないのか。
- ・障害者手帳をもらっておらず、就労のとき「手帳を持っていけば」と言われた。
- ・就労しようとした時、病名を告知したら、だめになるというパターンが多い。

【周囲から配慮が得られた事例】

- ・会社のほうから調子悪いときはお休み部屋で休んでもいいと言われている人がいる。そういうのが合理的な配慮だと思う。

【その他の意見】

- ・差別は、人それぞれ認識が違う。それを合わせる必要があるのではないかな。
- ・障害者の差別に限定するのはすごく抵抗がある。差別は市民全体にかかわる問題だと思うので、市民条例みたいな形で持っていけたらいい。
- ・小さい子供たちから障害者の人たちと交流するとか、身近にいと、比較的受け入れやすいと思う。
- ・障害を持っていて活動する、移動するという手段をある程度、地方自治体中心にサポートしていくというのが大切。
- ・病気の発症時に、病院の先生から、例えばこういうような患者会があるよとか情報があると、非常にありがたい。
- ・病院や役場の受付のところに拡大読書器があれば、相当違うのではないかな。
- ・差別という言葉自体は、障害、健全全く関係なく全てに係る話。
- ・自分が差別を受けたということは、今のところは感じたことはない。
- ・相手自身も考え方の違いで、差別は別にしていないという感覚でやっている場合もある。どれとどれは差別に当たるか判断してもらい、啓蒙的なことをやるかが重要。
- ・大変なことを訴えるということは、やっぱり必要だが、訴えることができない方たちをどうやってやるか重要ではないかな。
- ・障害者の当事者自身も声を出していくことがもちろん必要だし、行政は行政の立場として周知することも必要。

【差別事例・配慮が得られなかった事例】

- ・視覚障害者は、障害があることによって、情報が入ってこない
- ・就労に向けていろいろな企業の方とお話する機会があるが、まだまだ差別なのか、合理的配慮に欠けるというのか、そういう状況がある。
- ・仙台市の中でも段差が多い店が結構ある。取ってつけたようなスロープがすごい急だったりすると入れない。
- ・歩道と車道の所にある車を乗り上げるためのスロープみたいものの角度が結構きつくて危ない。
- ・歩道が狭く、でこぼこが多い。車椅子で転倒するんじゃないかと思われるところが結構多い。
- ・歩道のケヤキの根がだんだん伸びて舗装が盛り上がり、歩道がでこぼこになっているところも結構ある。
- ・歩道が狭いと店の方が誘導ブロック上に看板を出してしまう。
- ・誘導ブロック上に車を乗せたり、自転車を乗せたりとか、おばさんが立ち話をしていたりする。どちらかと言うとマナーの問題。
- ・震災時、避難所に入れない視覚障害者、盲導犬を連れてきたら、これは犬だから人と一緒に入ってはだめと言われたような事例はたくさんあった。
- ・目の見えない人が来てもらっちゃ困る的な対応をされるところもまだまだ多い。
- ・駐車場は車椅子用じゃないと乗降できるまでドアが開かない。パーキングパーミット制度を導入してほしい。
- ・歩道に電柱がいっぱいあって、なかなか車椅子の歩くスペースがない。
- ・ハローワークの求人票を見ていると、エレベーターがないので身体障害者の方は仕事がないなど書いてある。
- ・求人で、身体の方か知的の方と言われることも実際にはまだある。
- ・盲導犬を連れて行って店に入ると、出ていってくれというのがまだある。
- ・車椅子の方に同行した時に、タクシーの乗車拒否をされた。
- ・不動産で、障害者一人で生活しているとなると、保証人の問題とか、周りの住宅の問題、近所付き合いのことを言われて、なかなか借りれない。
- ・外出するのに、医療行為があるために難しいというような状況。
- ・片麻痺のある方が、日帰り入浴施設で、転んでけがをされると困るのでお一人では困りますと断られた。足腰が弱くなってしまった高齢の方は言われたい。
- ・視覚障害の方がアパートを探していた時、不動産屋と大家さんに火事を起こされるからダメだと断われた。
- ・地下鉄の「エスカレーターを歩かないようにしましょう」というポスターの取り組みはぜひとも今後も進めてほしい。実際、片麻痺の方とか、視覚障害の方はどちらに寄っても、脇を歩かれるととても怖い思いをする。

- ・車椅子用の駐車場が全く空いてないことが多いが、使っている人をよく見ると、健常者の方がそこに置いて買い物をしている。
- ・施設の見学者の中に、皆さん明るいですねと話をする方が非常に多い。障害を持っているというだけで、暗いとか、かわいそうだというイメージを持っている方が非常に多いのではないか。
- ・タクシー会社から、福祉タクシーを利用したらいいんじゃないかと言われた。
- ・聴覚障害者が事故で病院に搬送された時、医者や看護婦とうまくコミュニケーションが取れない。
- ・コンビニの中で聾者と知的障害者がいじめを受けているのを見た。
- ・聞こえないため、事故の際、一方的に相手方から言われる。警察と事故を起こした当事者で、どのような状況で事故が起きたのか説明してもらいたい。
- ・申請書などで、わからない時は問い合わせてくださいと書いてあるが、電話番号しかない。ファクスとかメールとかでも対応ができるとありがたい。
- ・クレジットカードをなくして、銀行で再手続をした時、目が見えないので、自分で名前が書けないから、つくれませんと言われた。
- ・職場で耳がだんだん遠くなってくると、コミュニケーションがうまく図れなくなって、会社をやめざるを得ない。
- ・医者とのコミュニケーションが十分でなく、誤った薬を出されることもある。
- ・東日本大震災でも、避難所でアナウンスがあったが、それが聞こえないために物資が得られなかった。
- ・一般の会社に勤めている難聴者が、会議で通訳をつけてもらえず、必要な情報を得られなかった。
- ・昼休みとか、会社の飲み会とかには、会話に入っていけないので、行ってもつまらない。
- ・時間がかかり、仕事のペースが遅いために簡単な仕事しか与えてくれない。
- ・筋ジストロフィーの方が、脳外科に入院した時、一切食事の介助をしてもらえなかった。

【周囲の配慮が得られた事例】

- ・車イスで見てわかり易いからか、最近はお手伝いしますよとか、大分聞くようになった。
- ・内部疾患で手帳をいただいているが、ほとんどの方がやさしく、接する方は理解してくれて、自分自身は差別を感じたことがない。
- ・街に出かけて買い物をする時、最近をよくドアとか開けてくれたり、店員の方が親切に物を取ってくれたりして非常に助かっている。
- ・点字ブロックの上に何か置いてあったりすると、子どもたちは進んでそれをどけてくれた。最近の若い子たちは、そういうことをきちんとやってくれる。

- ・地下鉄五橋駅でICカード化の券売機を設置した際、視覚障害の方を対象に説明会をしてくれた。
- ・大手のレンタルビデオ屋に、車椅子用の駐車場があったら、いつもその店に借りに行けるとメールしたら、2週間後に車椅子用の駐車場ができた。
- ・タクシーに行き先をメモして頼んで、連れていってもらって、最後に笑顔で挨拶してもらい、とてもいい対応の仕方だった。

【その他の意見】

- ・生まれつき障害か、途中からなのか、視覚障害の場合は見えない、見えにくいというのはかなり人によって違い、同じような事例でも差別であったり、差別でなかったりすることがあり得る。
- ・小さい時からの教育が一番だと思う。
- ・障害者の方と働いているゆえに、理解しているようで、気付かずに逆に差別をしていることもあるかもしれない。
- ・支援をしていくとき、自分たちも気づかない差別が出ているんじゃないか。
- ・社会の制度や仕組み、あるいは意識の違い、そういう点からも差別と言われるようなものが生じているんじゃないか。
- ・企業での障害者雇用の促進という傾向がある中で、これからまた何か難しいことが課せられるのかと反対の傾向になってしまわないような受けとめ方をしていただけるようにする必要がある。
- ・互いの理解に基づく共生社会をつくるためには、当事者が最初お互いを理解するということから始めないと、話が進んでいかない。
- ・避難所のあり方も、もう少し、既存の施設も有効活用すれば、差別解消につながるんじゃないか。
- ・同じ障害を持っていても、身内に対して親切さはあるが、よその人間だとそうでない人たちが多い。
- ・いろんな切り口から啓発が必要。
- ・実際に障害を持って、十分働いている方の主張をどんどん出していくような発表の場などもつくる必要がある。
- ・養護学校から施設に入る時、「もう少し選択肢があって、その中でも選んでいきたいと思ったが、学校の先生とか支援者の方の話でここに来た。来たくて来たわけではない。」という人がいた。
- ・聞こえないのでメールとファクスでお願いできないかと説明して、やっと対応してくれるようになったので、きちんと説明するのも大切だと思う。
- ・盲聾者自身、障害者自身が差別を受けたということをわからない場合もある。不利益を被っていても、不利な扱いを受けているということを知らないまま過ごしている可能性もある。

- ・一般市民の方には、手書きでも構いませんとか、ゆっくりはっきりお話ししてくださいというような啓発が必要。学校の福祉体験の中で、専門のところからそういった課題を教えていかないといけない。
- ・難聴者は、外見ではわからない障害を持っているために、周りの人たちが聞こえないということを理解できない。言葉を発しているから、本当は聞こえているんじゃないのとよく誤解される。

仙台市知的障害者関係団体連絡協議会

【差別事例・配慮が得られなかった事例】

- ・施設の外出行事や、食事する場所で、障害があるからということで断られた。
- ・不動産の契約の直前になって、オーナーの親族の方から反対されて、直前にその話が御破算になることが一度、二度じゃなく、たくさんあった。
- ・グループホームの立ち上げでやっと物件を見つけても、その地域の人たちから、町内会に確認をとっていかないとわかりませんと言われた。
- ・落ち着きないために、ちょっと向うに行って落ち着いてもらって、後でいいですかと通院の順番を後回しにされる。
- ・救急の受け入れで、すぐには受けてもらえない。
- ・小学校とか中学校の学生に、あの人たち気持ち悪いとか、嫌だといったことをささやかれた。
- ・出先で、子ども用のおむつ交換場所はあるが、大人用の交換所がなかなかなく、あちこち観光できない。
- ・障害のある方の家族がなかなか結婚できない。
- ・入院した際、完全看護のはずなのに、障害を持っているから、ぜひヘルパーをつけてくださいといわれた。
- ・就労では、時間的にも超勤で結構やっているところも多かった。それに対してお金のほうがかなり安い状況があった。
- ・販売活動の際に、障害があつてかわいそうだから買うと言われた。
- ・病院で、声をあげたら、「こういう子は診れません、落ち着いた時に連れてきてください」と言われた。医療面でシャットアウトされている。
- ・引っ越しが必要で、不動産屋に行った時、正直に家の子は障害を持っていますという「申しわけありませんが、マンション・アパートは無理です。戸建てじゃないと無理です。」と言われた。
- ・兄弟や家族から、差別まではいかないが、来客時に「ちょっと部屋にいて待っててね」と言われたりすることがある。
- ・小学生の時に囲まれて悪口を言われたし、中学校の時、学校に来るなと言われた。自分の思いを伝えられず、いじめられたりした。
- ・地下鉄の点字ブロックの不具合を、改札口にいる方に伝えたが、何年か後に見

た時にも全然変わってなかった。

- ・心臓が弱いから、できるだけエスカレーターのある場所の後ろか前かを知りたいので表示を付けてほしいと、交通局へ「市長への手紙」を出したが、そういうことをすると、便利がいいから、列車の中が混雑し、片寄ってしまうのでできないという回答だった。
- ・普段は一人で利用している地下鉄でも事故があると対応できず、ずっとホームで待っていた。アナウンスされてもわからない。人がいるか確認するなど、もう少し配慮して欲しい。
- ・空いていたバスで、ダウン症の息子を座らせて、付添いの自分も腰掛けようとしたところ、市バスの運転手がマイクで「付き添いの方は座ってはいけません。付き添いはそういうことでしょう。」と大声でいつてきた。怖くなり、その後バスに乗る時は、運転手に「付き添いだが、座っていいか」と必ず声かけるようになってしまった。
- ・トイレがいろいろ進化していて、どのボタンが水の流れるボタンなのかわかりにくい。公共施設でも、そういうトイレがあり、わかりやすく印をつけてほしいと依頼したが、デザインなので対応できないと取り合ってもらえなかった。

【周囲から配慮が得られた事例】

- ・運動会など、町内会のいろんな行事にグループホームを参加させていただいて、町内会に障害についてわかってもらえた。
- ・市バスの若い運転手で素敵な対応をしてくれた人がいた。こだわりの強い利用者につっかけられた時、普通だったら無視か、小声で怒るかするところ、顔を見てにっこりとしてくれ、その利用者は対応に満足して落ち着いた。
- ・特例子会社という障害者雇用を一生懸命取り組むというところも出てきている。就職した方がいたが、会社が障害の理解に一生懸命取り組んでくれている。

【その他の意見】

- ・義務教育の時から障害の理解、啓発といったものが必要。
- ・嫌な思いを嫌な思いとして認識することが難しいなど、知的障害のある方々の特性を踏まえて意見を集めないと、正しい意見収集にならない。
- ・障害理解を市民の方々にどう広めていくかというところがまずスタート。
- ・施設の中にだけいないで、どんどん地域に出て行って困ったことがあったら、それを解決していく。
- ・施設に保育の実習生を受け入れて、今の若い人たちに対して障害者の人たちの生活を知ってもらおう。中学生の職場実習というのを受け入れたこともある。
- ・広報の不十分さもあり、地域の理解がうまくいってないこともあるが、当事者も前面に出て話したり、声がけしなければいけない。
- ・私たちを知ってもらいたい。

【差別事例・配慮が得られなかった事例】

- ・不動産屋を何軒回っても、大体9割ぐらいは「精神の障害がある」と言う、門前払いのようなどころがある。
- ・ひとり暮らしをしたくても、理解を得られずにひとり暮らしができない。
- ・両親が精神障害の子に対して、もう結婚は無理だとか、もう働くことも絶対できないなど、最初から決めつけてしまう。
- ・入院の際、内科病棟に精神障害者が入るということを敬遠し、「精神障害者の隣に寝るのは嫌で、病室を変えた」ということを後で聞いて、ショックを受けた。
- ・精神障害と難病があり、難病の痛みで本人が救急車を呼ぼうと電話したが、「あなたは精神障害者ですか」ときかれ、「はい」と返事したところ、電話をガチャンと切られた。
- ・結婚の話で、家族に障害がいるということで相手の親族に反対された。
- ・地下鉄でふれあい乗車証を通すと緑のランプがついたり、宮城交通では、1回通すごとに音が鳴るため、障害者と分かってしまい、使うのに抵抗がある。
- ・精神障害者が音楽を奏でるイベントで、参加者かどうか分からないのに、その日にトイレでたばこを吸っている人がとても怖かったという苦情が来た。
- ・当事者の方が家の外をうろつく姿が地域住民の目から見れば不審者さながらなのだと思う。世間は精神障害者が犯罪者予備軍という目で見ています。
- ・この人は障害を持っている人だから余り無理はさせてはいけないとか、優しく接しなきゃという扱いを受け、逆差別というか、違和感を長年味わってきた。
- ・求人票が出ていても、障害種別をなるべく軽度の身体の人がいいとか、精神の人はイメージが余りよくなく、理解できないので雇えないということがある。
- ・事前実習までしてもうあと一步で契約というときに、本社からその方がてんかんを持っているということだけで採用が取り消しになった。
- ・仙台市の求人でも障害種別を決めた求人が回ってくる。
- ・支援者に子供扱いされたり、できることも「危ないから私やるから」と奪われると本当にできなくなったりする。
- ・当事者同士でも「あの人はいいよね、元気で」というのを言われたりする。
- ・障害者の中にも、都合のいいときだけ「私病気ですから、仕事を休みます」という人がいる。都合のいいときだけ病気を楯にして、「支援者だからやってくださいよ、何でやってくれないんですか」という支援者に対する逆差別もある。それは、障害じゃなく、その人の性格の問題。
- ・職場で、障害者枠の人は何もできない、指示されたことができない、などと思われていて、社員教育等でレベルアップの機会が得られない。
- ・職場で、あなたは障害者枠の人だからそれ以上のことはやってはいけないという空気が蔓延している。

- ・市バスで、ふれあい乗車証を通しただけで無然とされたり、運転手さんから舌打ちされた。
- ・市バスで「お世話様でした」とお礼を伝えても、「ありがとうございました」と答えてくれる運転手さんと、本当に無言で無然とした態度で終わってしまう運転手さんもいる。
- ・小学生の時、クラスの男子に体育着を隠したり、ノートをバラバラにされたり、いじめられたり、蹴られたり、殴られた。
- ・学校の先生に他の子よりできると思われて、自分ばかりいろいろさせられた。お前が一番できるから、もうちょっと鍛えると、自分ばかり怒られて嫌だった。

【周囲から配慮が得られた事例】

- ・病院で、ナース室前の空き室にテレビの配線などしてくれ「ナースから近いから個室にいるよりここがいいよ」と部屋を用意してくれ、ありがたかった。
- ・地域の活動に参加した際、配慮してもらいたいことを説明したところ、配慮してほしい部分だけとらえてくれた。障害者ということより、地域と一緒に住んでいる人と活動していると思ってもらえた。
- ・黒子でいてくれる支援者がすごく助かる。一步後ろにいてくれて、ちょっと無理だなと思ったときに「一緒にやる？」と横に来て、「じゃ、ここちょっと難しいから一緒にやりましょう」と言ってくれる。

【その他の意見】

- ・差別の問題は、片方だけじゃなくて両方の話を聞かないと、それが差別なのかどうなのかというのを、判断するのは難しい。
- ・古い考えに基づいてつくられた施設やサービスでは、施設のあり方や職員のかかわりが変わっていきなさない。
- ・差別について訴えるのも大事だが、それと同時にやはり自分自身ができるところを発信していくということも大事。
- ・差別について正しい知識を持っていても、実際に障害を持った方と接しないで、上から目線でみるのではなく、実際に触れ合って、人間対人間でつき合ってほしい。
- ・学生への講義後のレポートで、精神障害には暗いイメージや何かしそうな人だと書かれている方がたくさんいた。何でそういう理解になっているかという、親のほうの偏見がある。
- ・交流の場を多く持つ必要がある。それが性格なのか、病気なのかは交流の場を多くすればわかってくる。

【差別事例・配慮が得られなかった事例】

- ・養護学校から地元の小学校へ転入した時、運動会、遠足、校外学習、文化祭、修学旅行などの学校行事には参加しないでくれと言われた。話し合いを続けて、行事に参加できるようになった。
- ・アパートを探そうと思って不動産屋に行ったが、見るなり、「あなたに貸せる物件はない」と言われて門前払いをされた。
- ・市営バスで、ノンステップバスが来たので、乗ろうとしたが、予約していないので乗せないと言われた。
- ・旅行に行く時、旅行パックを申し込むことができない。車いすの切符がJR管轄なので、旅行会社からは確保できないと言われた。
- ・盲腸で救急車を呼んだが、救急車の中で「持病はあるか」と聞かれ、「統合失調症で、乳がんもあり手術前」と答えた。救急隊員と病院のやりとりで統合失調症の持病があると話すと、少し待たされるたびに断られていた。統合失調症というだけで受け入れを拒まれたのではないかと思い、また救急の事態が起きたとき、助けてもらえないのかと不安。
- ・クレーンの事故があつて以来、てんかんは危険な病気と認知されてしまい、雇用に躊躇がある。面接も受けられない。
- ・てんかんの子が、発作もなく、主治医からも危険はないと、5年間普通に水泳の授業を受けていたが、6年生になって、突然学校から安全のために帽子に目印をつけるようにとりボンが渡された。てんかんというだけで目印をつけさせるのは、その子の場合、必要な配慮ではなく、とてもショックを受けた。
- ・震災のとき、避難所で知的障害の子の母が「障害がうつる、迷惑だ、あの子と一緒に遊んじゃダメ。」など言われた。
- ・出かけようと思っても、バスを予約しきやいけないとか、予約しても運転手がリフトの使い方がわからない。
- ・五橋の地下鉄のリフトつきの階段で、使うにも一人呼ばなきゃならず、一手間がかかり、申し訳ないと思ってしまう。
- ・物件を借りるとき、障害のある方が借りる、住むというだけで抵抗感を示されたり、地域の方からちょっと困るという話が出る。
- ・就職の面接のときのアンケートで「てんかんの病気を持っていますか」とあり、ショックを受けた。
- ・C型肝炎であるということを告知しただけで、町内会で話し合いになり、それまでやっていた町内の祭りなどでの鍋づくりに、次の年から入らないでくださいと言われた。
- ・就職の面接で、足に障害があるのに、「非常時に何かあったら走って逃げられますか」と質問された。それが採用の基準になっている。

- ・市民会館の地下のリフトを使いたくても、「わかりません」と言われ、動かせる担当者を捜しにいかなくちゃいけない。
- ・てんかんの娘が、「吐いた息がかかったらうつる」と言われ、友達が飛びのいた。
- ・障害について公表して活動していると「そういうことを言ったらほかの姉妹も結婚できなくなる」と言ってくる人がいる。

【周囲から配慮が得られた事例】

- ・飲食店に入店したときに、段差が多かったが、その店は店独自で携帯用スロープを持っていて、それでスムーズに入店することができた。
- ・震災の避難所で、知り合った人たちに、統合失調症だということを伝えた時、病気があっても私という人間をそのまま受け入れてもらえた。一人の人間として普通に接してくれたことがすごくうれしかった。

【その他の意見】

- ・障害を理由として福祉サービスの利用に関する適切な相談及び支援が行われることなく、本人の意に反して入所施設における生活を強いることは絶対してはいけない。
- ・本人の生命または身体の保護のためにやむを得ない必要がある場合やその他の合理的な理由がなく、障害を理由として福祉サービスの提供を拒否、制限、条件を課す、その他不利益な取り扱いをすること、これも禁止しなきゃならない。
- ・相談機関をもう一回編成し直す必要があるんじゃないか。北部・南部アールや各民間の相談員の人々、こういう人たちに本当に地域に根差した権利擁護ができるようしていただきたい。
- ・言語表出のあるなしで意志があるないと判断してしまう部分があるが、障害のある方の前に一市民として意思があるというところをまず条例の中に含めていく必要がある。
- ・病気はうつるのかとか、動きや言葉をまねされたりするなど、嫌がらせやハラスメントという意識の課題が大きい。差別をなくす仕組みの中に啓発・啓蒙の仕組みを組み込むのが重要。
- ・事業所をつくる時、町内会への加盟や、何かの役割・お手伝いなど、地域の人のためになることをやるなど、地域の人と仲良くなる、地域の人のために何でもやるという姿勢を示しておくことが必要なんじゃないか。
- ・条例に期待することは、救済機関をつくってほしい。
- ・虐待防止についても、条文を条例に組み込んでほしい。